

令和 4 年 5 月 22 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K12471

研究課題名（和文）韓国の多面的外交研究を通じた東アジア冷戦史の再解釈：冷戦終焉期に焦点を当てて

研究課題名（英文）The Reinterpretation of the Northeast Asian Cold War History by the ROK's  
Multilateral Diplomacy: Focusing on the Period of the End of Cold War

研究代表者

木宮 正史（KIMIYA, Tadashi）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：30221922

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：マルチアーカイブな外交史料に対する調査を通して、グローバル冷戦の終焉期において、それがなぜ朝鮮半島冷戦の本格的終焉に連携しなかったのかを実証的に明らかにした。韓国、北朝鮮、日米などの関連諸国の外交政策において、どのような可能性が開かれていたのか、「失われた機会」はなかったのかを考察した。それを通して、朝鮮半島に焦点を当てた多層的な冷戦史解釈、国際関係史解釈を新たに提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、元来はグローバル冷戦の一環として朝鮮半島冷戦が位置づけられていただけに、グローバル冷戦の終焉がなぜ朝鮮半島冷戦に連携しなかったのかというパズルに対して、日米韓三カ国の外交史料を利用することによって、仮説を提示したことである。

社会的意義としては、北朝鮮の非核化とそれを前提とした朝鮮半島における平和共存の制度化など、平和体制構築という課題に関して、過去の「失われた機会」を活かすという観点から、日韓の外交政策に関する有意義な政策提言を行ったことである。

研究成果の概要（英文）：This research has explored why the end of the global cold war had not resulted in the genuine end of the Korean cold war. And it made clear the chance or lost opportunities of foreign policies of North and South Korea, the United States, and Japan. It has proposed the new interpretation of the history of cold war and international relations focusing on the Korean Peninsula

研究分野：朝鮮半島地域研究

キーワード：朝鮮半島 日韓関係 冷戦の終焉 韓国外交 南北関係 北朝鮮核危機 米韓関係 米朝関係

## 1. 研究開始当初の背景

(1)1980年代の冷戦の終焉をめぐる研究は、研究途上の段階にあった。その中でも、朝鮮半島冷戦に関しては、米国の外交文書が未公開の状況であるのに対して、韓国政府外交文書はほぼ公開された状況であった。したがって、韓国外交文書および南北高位級会談に関する韓国統一部の文書などを参考にして、韓国の北方外交、南北関係に関する研究が取り込まれるようになっていた。

(2)2018年は一連の南北首脳会談、米朝首脳会談などを通して北朝鮮の非核化をめぐる国際関係が劇的に変化するかに思われたが、2019年2月のハノイ米朝首脳会談での決裂によって、そうした楽観的な見通しの修正が迫られた。さらに、元徴用工に関する2018年10月の韓国最高裁判決に起因して日韓関係は緊張の度を深めるようになった。

## 2. 研究の目的

(1)グローバルな冷戦の終焉がなぜ朝鮮半島冷戦の終焉に連携しなかったのかという問題設定に対して、同陣営に属する米韓、日韓、日米、ソ朝、中朝関係、特に、米韓と日韓に焦点を当て、さらに異なる陣営に属する、中韓、ソ韓、日朝、米朝、南北、特に日朝、米朝、南北に焦点を当てることによって、その複雑な国際政治力学を解明する。

(2)そこで獲得された知見に基づいて、軍事的な緊張が高まる朝鮮半島、さらに、それを取り巻く米中対立の深刻化という状況の中で、日韓がどのような外交を構想し、選択することができるのか、日韓関係の歴史的な構造変化を踏まえううえで、具体的な政策提言を行う。

## 3. 研究の方法

(1)日米韓の三国の1970年代、80年代の外交史料を収集し、分析することを通して、冷戦の終焉に向けた、日米韓の三国の外交構想の重なりとずれの注目することによって、日米韓の三国の外交の比較と関係を解明する。

(2)主としてオンラインで韓国の研究者との対話を行うことによって、一方で、1970年代・80年代における韓国における冷戦史研究の最先端を吸収すると共に、北朝鮮の核ミサイル開発が継続する中、さらに、米中対立が少なくとも韓国の楽観的予測を超えて先鋭になる中で、さらに、韓国において大統領選挙があり、そこで与野党政権交代が実現された中で、そして、歴史問題をめぐる緊張関係が高まったままの日韓関係に直面し、日韓が知的に、さらに政治的にどのような選択の可能性があるのかを、お互いに模索する。

## 4. 研究成果

(1)グローバルな冷戦の終焉のみならず、南北体制競争における確実な優位を背景に、韓国は対中、対ソなどを対象に行った北方外交に取り組み、中ソなどとの国交正常化を達成したが、そうした交渉過程の中で、北朝鮮に対して、当初の「孤立」から次第に「関与」の方向へと変容したことを解明した。

(2)日韓関係については、一方で1980年代、日本の国際的な位相が上昇する中で、独自の対朝鮮半島外交を展開する機会を捕まえ、韓国の北方外交と協力しながら競争する形で、対北朝鮮外交に取り組もうとしたことを解明した。

(3)米韓関係については、1980年代の韓国の北方外交に関して、一方で米国の支援を受けて行う側面と、他方で米国とは自律的に行う面の両側面があることを解明した。さらに、特に対中ソをめぐり、韓国外交の自律的な展開過程を明らかにした。

(4)冷戦の終焉が朝鮮半島冷戦の終焉に連携しなかったことに関しては、南北関係の独自の力学が重要だったことを明らかにした。北朝鮮はそれまでの自国主導の統一をある意味では放棄し、いかに自体制の生存を図るのかに優先目標を転換した。それに伴って、南北高位級会談に応えることで南北枠組みに関与しながらも、結局は対韓関係よりも対日米関係を優先させる「韓国迂回」戦略を採用したからである。

(5)基本的には、こうした北朝鮮の「韓国迂回」戦略は、2000年、18年の南北首脳会談にもかかわらず持続する。しかも、核ミサイル開発により一層本格化する。これに対して、韓国の対応は、保守と進歩リベラルの政権交代に伴い、動揺する。上記の実証研究での知見に基づいて、どのような対日米関係を構築し、それに基づいて韓国なりの対北朝鮮関与政策を採用することを提言した。

(6)さらに、北朝鮮の核ミサイル開発の再本格化、米中対立の深刻化という新たな状況の下で、依然として歴史問題をめぐって緊張が持続する日韓関係において、どのような和解の可能性があるのかを提示しつつ、対北朝鮮政策、米中対立への対応に関して、どのような政策協調の可能性があるのかを提言した。

<引用文献>

木宮正史『日韓関係史』岩波書店、2021年

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 202
2. 論文標題 構造変容に直面し『迷走』する日韓関係 何を指し、どのように克服するか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 政策オピニオン（平和政策研究所）	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 KIMIYA Tadashi	4. 巻 2
2. 論文標題 The Structural Transformation of South Korea-Japan Relations amid the North Korean Nuclear Crisis and U.S. -China Confrontation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 KOREA INSIDE OUT(Seoul National University, Institute of International Affairs)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 1-38
2. 論文標題 日本の岸田政権出帆以後韓日関係の展望(韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia Brief Current Issues and Policy Implications (Seoul National University Asia Center.)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 4740
2. 論文標題 韓国大統領選で政権交代 若年男性の支持得た尹錫悦氏 米中の狭間で問われる政治手腕	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 週刊エコノミスト	6. 最初と最後の頁 80-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 20
2. 論文標題 特別レポート 日韓関係改善への道筋	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブリタニカ国際年鑑2020年版	6. 最初と最後の頁 114 - 116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 25-9
2. 論文標題 日韓の葛藤のその構造的要因 学術協力の役割は何か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.25.9_22	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 55
2. 論文標題 韓国の新型コロナ対策：日本との比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア政経学会ニュースレター	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 222
2. 論文標題 非核化をめぐる朝鮮半島情勢と日韓関係の展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界平和研究	6. 最初と最後の頁 38,41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 163
2. 論文標題 日韓協力の先に現出する持続可能な関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊公明	6. 最初と最後の頁 56, 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 3
2. 論文標題 日本から見た2019年朝鮮半島と北朝鮮問題 (韓国語)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korea Report POSTEC Peace Institute	6. 最初と最後の頁 26, 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 723
2. 論文標題 米朝会談の深層と日本の針路	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊『潮』	6. 最初と最後の頁 98, 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木宮正史	4. 巻 198
2. 論文標題 尹大統領誕生が示す日韓関係改善の糸口	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊公明	6. 最初と最後の頁 36, 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 韓国大統領選挙と韓国政治外交の展望、そして日韓関係
3. 学会等名 世宗研究所日本研究センター主催『韓国大統領選挙と東アジア情勢』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 対称的・相互競争関係下の日韓学術協力の可能性
3. 学会等名 日本学術会議地域研究委員会アジアの地域協力と学術ネットワーク構築分科会主催公開国際シンポジウム『戦後アジアの地域再編と学術の共同 分断・協調・再分断を超えて』（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 非対称な相互補完的關係から対称な相互競争関係へと変容する日韓関係：歴史問題にどのように取り組むべきか
3. 学会等名 東京大学韓国学研究中心・韓日未来フォーラム共催 第9回日韓ジャーナリスト国際シンポジウム『米中葛藤と対北朝鮮政策、そして危機の日韓関係』（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KIMIYA Tadashi
2. 発表標題 The Structural Transformation of South Korea-Japan Relations amid the Intensification of the US-China Strategic Rivalries
3. 学会等名 Ministry of Korean Unification, 2021 Korea Global Forum for Peace: New Vision for Inter-Korean Relations and Community for Peace, Economy and Life of the Korean Peninsula（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KIMIYA Tadashi
2. 発表標題 The Structural Transformation of South Korea-Japan Relations amid the US-China Strategic Rivalries and North Korean Nuclear Crisis:What is our choice?
3. 学会等名 The National Research Council of Economics, Humanities and Social Sciences (NRC), Korea, International Symposium:Discussing Great Transformation in Korea-Japan Relations (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KIMIYA Tadashi
2. 発表標題 South Korea-Japan Relations amid the US-China Strategic Rivalry and NK Nuclear Crisis
3. 学会等名 韓国国立外交院日本研究センター主催『済州平和フォーラム 東アジアの持続可能な平和のための韓日関係再構築』(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 福島放射能処理水・汚染水放出をめぐる日韓関係
3. 学会等名 Korea Peace Foundation主催『福島原発の処理水・汚染水の海洋放出をめぐって』(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 朝鮮半島情勢の行方と日韓関係
3. 学会等名 平和政策研究所 / UPF-Japan 『Think Tank 2022 FORUM ILC特別懇談会 朝鮮半島と北東アジア情勢の展望』(招待講演)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 激化する米中对立・持続する北朝鮮核危機の中、非対称な相互補完的關係から対称な相互競争關係へと変容する日韓關係：我々を何を考え、どう対応するのか
3. 学会等名 駐新潟大韓民国総領事館主催・新潟日報社共催『韓日關係フォーラム あすの交流・連携を考える』（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 米中对立、北朝鮮核ミサイル危機の中での日韓關係の構造変容：非対称的相互補完關係から対称的相互競争關係へ
3. 学会等名 日本アカデミア勉強会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 米中对立の中の日韓關係、競争的協力の可能性を探る
3. 学会等名 駐大阪大韓民国総領事館主催、『韓日關係フォーラム 変化する米中關係と韓日・日韓の未来』（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 韓国における国家形成とその変容：脱植民地化をめぐる競争・「企業家的国家」による体制競争・ポスト競争下の「先進国化」
3. 学会等名 日本国際問題研究所主催 公開ウェビナー「『20世紀の東アジア史』から21世紀を考える」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 構造変容に直面し、漂流する日韓関係
3. 学会等名 平和政策研究所主催 有識者マスコミ懇談会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KIMIYA, Tadashi
2. 発表標題 Outlook of the Korea-Japan Relations in the post-COVID 19 Era
3. 学会等名 International Symposium: Korea-Japan Relations in the Era of Structural Transformation -Go beyond the Past and Export Regulation, and Design the Future for the Post-COVID World（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 ポスト安倍政権の日韓関係展望(韓国語)
3. 学会等名 ポスト安倍時代の日本政治と対外関係 専門家懇談会（韓国語）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 解放75年、朝鮮戦争勃発70年、日韓国交正常化55年（韓国語）
3. 学会等名 韓国キリスト教学会『解放75年、朝鮮戦争勃発70年』（韓国語）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 日韓関係の当面の懸案とその背景
3. 学会等名 東京大学韓国学研究中心 韓日未来フォーラム共催 『2020日韓関係 専門家・言論人国際セミナー』（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 米中対立構図下、不透明な朝鮮半島情勢に直面しながらも葛藤に悩む（韓国語）日韓関係
3. 学会等名 韓国国会立法調査処 『"2021年日本の対外政策展望" 専門家懇談会』（韓国語）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 北東アジア国際関係の変容と激化する日韓葛藤（韓国語）
3. 学会等名 第1回サント北東アジア国際フォーラム北東アジアパラダイムの変化と朝鮮半島の進路（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 北東アジア国際関係の変容と高潮する日韓葛藤（韓国語）
3. 学会等名 ソウル新聞平和研究所2019秋季セミナー 韓日関係と韓半島平和プロセス（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 北東アジア国際関係の変容と高潮する日韓葛藤（韓国語）
3. 学会等名 韓国忠南大学主催東アジア国際秩序と韓半島：周辺国の観点（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 朝鮮半島情勢と日韓関係（韓国語）
3. 学会等名 International Leadership Conference "Toward Peace and Security in Northeast Asia: Interdependence, Mutual Prosperity and Universal Values（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 中国をめぐる日韓関係
3. 学会等名 Commemorative Seminar on The 20th Anniversary of China-Japan-Korea Trilateral Cooperation（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 日韓関係の原状と展望
3. 学会等名 朝鮮問題を考えるジャーナリスト懇話会主催「朝鮮問題勉強会」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 日韓の葛藤とその構造的要因: 学術協力の役割は何か?
3. 学会等名 日本学術会議 地域研究委員会アジアの地域協力の学術ネットワーク構築分科会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木宮正史
2. 発表標題 漂流する日韓関係: 何をどのように打開するのか
3. 学会等名 環日本海国際学術交流協会主催 学術セミナー講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 木宮正史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 244
3. 書名 日韓関係史	

1. 著者名 浅野豊美、木宮正史、他 全9名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 和解学の試み 記憶・感情・価値	

1. 著者名 木宮正史ほか全9名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北アジア歴史財団	5. 総ページ数 359
3. 書名 歴史和解のための韓日対話 政治編 (韓国語)	

1. 著者名 川島真、森聡、木宮正史ほか全16名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 257
3. 書名 アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序	

1. 著者名 木宮正史ほか9名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 315
3. 書名 20世紀の東アジア史 各国史1 東北アジア	

1. 著者名 劉傑、木宮正史ほか全14名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 381
3. 書名 和解のための新たな歴史学—方法と構想	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------